

教育研究業績書

2017年10月20日

所属：心理・社会福祉学科

資格：講師

氏名：三浦 彩美

研究分野	研究内容のキーワード
社会心理学	対人コミュニケーション（非言語行動）
学位	最終学歴
博士（学術），修士（学術），学士（人間関係学）	神戸大学大学院 総合人間科学研究科 博士後期課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. プレゼン力・質問力・ディスカッション力の向上	2011年4月～現在	聞き手にわかりやすいプレゼンを行う能力，および積極的に質問・ディスカッションする能力を身につけるために，ゼミ（専門演習）の時間においてプレゼンの機会を多く取り入れ，活発な質疑応答が展開できるよう指導している。
2. 振り返り小テスト	2009年04月～2011年03月	毎回の授業の初めに前回の講義内容に即した小テスト（7問程度，選択式）を実施し，答え合わせをしながら振り返りを行う。即時フィードバックによって分からないところをその場で把握できるため，質問などによって理解を深めることができる。
3. 新聞記事の授業への活用	2007年04月～2011年03月	発達や教育に関連する新聞記事を中心に切り抜きを集めたプリントを毎回の授業で配付する。最新の記事に触れることで，現在の日本におけるさまざまな問題（保育現場，教育現場，家庭における諸問題）について知り，考えるきっかけを作る。
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1. 上宮高校 模擬授業 講師	2015年12月16日	学校見学を訪れた高校1・2年生を対象に「説得の心理学」というテーマで講義を行った。
2. 大阪府立北摂つばさ高校 模擬授業 講師	2015年12月11日	学校見学を訪れた高校1・2年生を対象に「説得の心理学」というテーマで講義を行った。
3. 兵庫県立神戸甲北高校 模擬授業 講師	2015年10月07日	高校1年生を対象に「説得の心理学」というテーマで講義を行った。
4. 兵庫県立播磨南高校 模擬授業 講師	2015年10月02日	学校見学を訪れた高校2年生を対象に「説得の心理学」というテーマで講義を行った。
5. 山陽女子高校 模擬授業 講師	2015年07月16日	学校見学を訪れた高校2年生を対象に「説得の心理学」というテーマで講義を行った。
6. 兵庫県立東播磨高校 分野説明 講師	2015年06月23日	学校見学を訪れた高校2年生を対象に「心理学・社会福祉とは」というテーマで講義を行った。
7. 西宮市立学文公民館 地域講座 講師	2015年03月04日	地域の人々を対象に「心理学～顔とこころ～」というテーマで講演を行った。
8. 上宮高校 模擬授業 講師	2014年12月16日	学校見学を訪れた高校1・2年生を対象に「集団の中で私たちはどのようにふるまうのか？」というテーマで講義を行った。
9. 梅花高校 分野説明 講師	2014年12月08日	高校2年生を対象に，心理学という学問領域の概要や心理学の学びを生かした進路などについて説明した。
10. 山陽女子高校 分野説明 講師	2014年07月09日	学校見学を訪れた高校2年生を対象に「心理学・社会福祉とは」というテーマで講義を行った。
11. 鳴松会教養講座 講師	2013年10月20日	文化祭に合わせて開催された鳴松会（武庫川学院同窓会）教養講座において，「だから説得されたのか！」というテーマで講義を行った。
12. 朝小サマースクール in 武庫川女子大学 講師	2013年08月06日	小学生を対象に「ものの見え方の不思議」というテーマで体験授業を行った。
13. 武庫川女子大学附属高校 模擬授業 講師	2013年02月05日	高校2年生を対象に「集団の中で私たちはどのようにふるまうのか？」というテーマで講義を行った。
14. 兵庫県立太子高校 模擬授業 講師	2012年02月15日	高校1年生を対象に「心理学の学び」というテーマで講義を行った。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 認定心理士	1998年3月15日	
2. 秘書技能検定2級	1996年11月10日	
2 特許等		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1. 日本感情心理学会第20回大会 実行委員	2012年5月26日～2012年5月27日	
2. 神戸大学鶴山論叢刊行会 編集委員	2000年4月～2003年3月	

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要

1 著書				
1. 行動科学への招待 改訂版—現代心理学のアプローチ	共	2012年01月20日	福村出版	2章「対人行動」(pp. 33-43)を担当。対人コミュニケーションの中でもとくに非言語コミュニケーションに注目し、その分類と特徴を説明した。また、対人関係における自己開示、自己呈示、社会的スキルについても述べた。 著者：米谷淳，神藤貴昭，三浦彩美，小林知博，尾入正哲，近藤清美，溝上慎一，西垣悦代，米澤好史，十河宏行，村上晴美
2. 発達・社会からみる人間関係—現代に生きる青年のために	共	2009年04月10日	北大路書房	1章「乳幼児期の親子関係」(pp. 3-16)，8章「非言語行動」(pp. 137-149)を担当。「乳幼児期の親子関係」においては、乳児が生まれながらに様々な能力を持っており、それが母子の情緒的な絆の形成に重要な役割を果たしていることについて述べた。ボウルビイの愛着理論、児童虐待の問題にも触れている。また「非言語行動」においては、対人コミュニケーションにおける非言語行動の機能について述べ、その分類や文化差についても検討した。 著者：三浦彩美，高井範子，柏尾眞津子，小林知博，金政祐司，三浦麻子，西垣悦代

2 学位論文				
1. 映画作品における表情表出	単	2003年03月31日	神戸大学大学院総合人間科学研究科（博士論文）	まず基本表情と定義されている表情と、映画作品の感情表現場面で見られる典型的表情のどちらが自然な表情としてとらえられるのかを動作教示法を用いた評定実験で検証した。次に日本人の典型的表情の特徴をとらえるために6つの映画作品から取り出した表情を分析した。また、日本人が邦画の登場人物の感情を読みとる時に文脈情報がどのような影響を及ぼすかについても検討し、映画作品を用いた表情研究の意義と課題を示した。
2. 映画における日本人と欧米人の表情表出	単	2000年03月31日	神戸大学大学院総合人間科学研究科（修士論文）	映画作品（邦画・洋画各1作品）における登場人物の表情について、FAST (Facial Affect Scoring Technique) による表情分析を行なった。7つの基本表情が出現する時間を比較したところ、邦画において悲しみの表情の表出時間が少ないことがわかった。また、邦画では悲しみの場面で顔を見せまいとするしぐさが多かったが、洋画ではみられなかったことから、日本人は悲しみを隠す傾向があることがわかった。

3 学術論文				
1. 大学院原子力工学専攻の授業評価はなぜ上がったか	共	2004年05月20日	工学教育，52，86-92 日本教育工学協会	21世紀COEプログラム「新産業創造指向インターナショナルサイエンス」において大学院教育の全般的な見直しと改革が進められるなか、その取り組みを客観的に評価するためにさまざまな調査研究を実施した。その1つが学生を対象とする授業評価アンケートであり、平成14年度と15年度の評価を比較することにより教育改革の効果を測定した。その結果、多くの項目で評価が上昇しており、学生の予復習の促進、受講態度や課題提出を含む総合的評価を取り入れたことがその要因となっていることが示唆された。 著者：山中伸介，宇埜正美，三浦彩美，松本隆信，米谷淳
2. 日本人の表情認知構造—動作教示法による表情を用いた再検討	単	2003年03月31日	鶴山論叢，3，97-110 神戸大学国際文化学部・大学院総合人間科学研究科 鶴山論叢刊行会	日本人が文化普遍的な基本表情と、映画やドラマの感情表現場面で見られるような表情とをそれぞれのどのような認知的枠組にもとづいて知覚しているのかを検討した。その結果、基本表情と典型的表情のそれぞれを日本人が正しく解釈できることを示唆する結果が得られた。また、因子分析の結果にもとづいて日本人の表情認知構造の特徴を調べたところ、基本表情や欧米人の典型的表情に対する認知構造と、日本人の典型的表情に対する認知構造では、とくに悲しみのカテゴリーの位置に違いがあることが確かめられた。
3. 表情研究における「映画」の可能性	単	2002年03月31日	国際文化学，6，91-103 神戸大学国際文化学会	表情研究の分野で映画がどのように用いられてきたかを概観し、映画作品を用いた表情研究においても

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
4. 映画における日本人と欧米人の表情表出	単	2000年09月30日	国際文化学, 3, 49-60 神戸大学国際文化学会	重要な問題である基本表情と表示規則について述べた。さらに映画に出演する俳優の行動様式や表情を具体的かつ計量的に検討した過去の研究をとりあげ、それらの知見を感情表現および表情表出の文化差の点から概括し、最後に映画の中の表情を対象とした表情研究の今後の展望について論じた。 映画作品（邦画・洋画各3作品）から60の感情表現場面を取り出した。被験者が登場人物の感情を評定し、一致率の高かった場面の表情をFACS (Facial Action Coding System) により分析した。その結果、邦画洋画ともいわゆる典型的な基本表情ではない顔の動きが多く観察された。とくに恐れ表情において日本人と欧米人に違いがあることが示唆された。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. Relationship between the pre-performance routines and the effectiveness of these behaviors in student-swimmers.	共	2016年07月 発表予定	The 31st International Congress of Psychology	学生水泳選手が試合直前に意識的に行う行動（ルーティン行動）とその効果の関連を調べるために、研究1では90名のスポーツ選手にルーティン効果を問う項目への回答を求め、因子分析結果にもとづき28項目からなるルーティン効果尺度を作成した。研究2では、水泳選手20名の試合直前の行動を録画し、ルーティン行動を特定した。試合後、選手にルーティン行動尺度への回答を求めた。また意識的に行っている行動を問う、その行動と実際の行動との合致率を算出した。その結果、ルーティン効果尺度得点と合致率との間に相関は見られなかった。ルーティン効果の意味は、経験年数との関連から考察した。 著者：三浦彩美, 岩村遥佳
2. 原子力工学専攻大学院生の意識調査(3)－研究・教育に対する意識の経年変化	共	2005年09月24日	日本社会心理学会第46回大会発表論文集	21世紀COEプログラムにもとづく教育改革が進められるなか、学生の大学院における教育・研究に対する意識がどのように変化しているのかをとらえるために、平成14～16年度の3年間で回答の傾向が変化している項目をとりだして、その要因について検証した。評価の平均値を比較すると、教育・研究に対する意識や悩みが変化していることがわかり、とくに教育レベルを問う項目からは、学生が大学院教育に対してより高いレベルの授業や研究指導を求めていることが示唆された。 著者：三浦彩美, 山中伸介, 宇埜正美, 松本隆信, 上田宣孝, 米谷淳
3. 大学院教育の改革と学生評価(6)－学生による授業評価と教員による自己評価	共	2005年09月13日	日本原子力学会2005年秋の大会要旨集, 24	原子力工学専攻で開講された授業に対する大学院生の授業評価について、平成14～16年度の3年間の経年変化に着目しながら、学生評価の結果と教員による自己評価アンケートの結果とを比較・検証した。その結果、学生評価の経年変化については7教科中5教科で平均値の上昇がみられ、教員の具体的かつ積極的な工夫や努力が授業改善に結びついていることが示唆された。また16年度の学生評価と教員評価を比較すると、7教科全てにおいて平均値に大きなズレはみられず、教員と学生それぞれの視点から見た授業の評価が一致していることがわかった。 著者：三浦彩美, 山中伸介, 宇埜正美, 松本隆信, 上田宣孝, 米谷淳
4. 原子力工学教育の教育効果(5)－授業評価アンケートと学生の顔上げ行動	共	2005年09月09日	日本工学教育協会平成17年度講演論文集, 226-227	インターナノサイエンスをテーマとする新しい授業について、受講中の学生の顔上げ行動を観察・分析した結果と、授業評価アンケートの結果とを比較することによって、授業評価と学生の受講態度の関連を調べた。その結果、授業評価の高い講義は顔上げ行動の生起率が高く、時系列的に見ても終始60%を切ることはなかった。一方授業評価の低い講義は顔上げ行動の生起率も低く、授業後半になると4割の学生が顔を上げていない時間があり、授業評価と学生の受講態度に対応関係があることが示唆された。 著者：宇埜正美, 山中伸介, 三浦彩美, 松本隆信, 上田宣孝, 米谷淳
5. 原子力工学教育の教育効果(6)－大学院生の教育・研究に対する意識の経年変化	共	2005年09月09日	日本工学教育協会平成17年度講演論文集, 228-229	21世紀COEプログラムにもとづく教育改革が進められるなか、学生の大学院における教育・研究に対する意識がどのように変化しているのかをとらえるために、平成14～16年度の3年間で回答の傾向が変化している項目をとりだして、その要因について検証した。評価の平均値を比較すると、教育・研究に対する意識や悩みが変化していることがわかり、学生が大学院教育に対してより高いレベルの授業や研究指導を求めていることが示唆された。 著者：三浦彩美, 山中伸介, 宇埜正美, 松本隆信,

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
6. 原子力工学教育の教育効果(4)－ 授業評価アンケートと教員自己評 価アンケート	共	2005年09月0 9日	日本工学教育協会平成1 7年度講演論文集, 224- 225	上田宣孝, 米谷淳 原子力工学専攻で開講された授業に対する大学院生 の授業評価について、平成14～16年度の3年間の経年 変化に着目しながら、学生評価の結果と教員による 自己評価アンケートの結果とを比較・検証した。そ の結果、学生評価の経年変化については7教科中5教 科で平均値の上昇がみられ、教員の具体的かつ積極 的な工夫や努力が授業改善に結びついていることが 示唆された。また16年度の学生評価と教員評価を比 較すると、7教科全てにおいて平均値に大きなズレは みられず、教員と学生それぞれの視点から見た授業 の評価が一致していることがわかった。 著者：山中伸介, 宇埜正美, 三浦彩美, 松本隆信, 上田宣孝, 米谷淳
7. 大学院教育の改革と学生評価(5) －学生の受講態度と授業評価アン ケート結果との比較	共	2005年03月3 1日	日本原子力学会2005年 春の年会要旨集, 7	原子力工学専攻の大学院生を対象に開講された集中 講義において、授業評価アンケートと受講生の受講 態度の分析を行なった。2つの指標にどのような関連 性がみられるかを客観的データにもとづいて検討し たところ、学生の授業評価が高かった講義において は、学生は顔をあげて授業を聞き、あくびや背伸び などの行動がほとんど観察されなかった。一方、授 業評価の低い講義においては、あくびが多く観察さ れていた。このことから、授業評価と受講態度に関 連性があることが示唆された。 著者：三浦彩美, 山中伸介, 宇埜正美, 松本隆信, 上田宣孝, 米谷淳
8. 大学院教育の改革と学生評価(4) －平成14年度～平成16年度の授業 評価アンケート結果の比較	共	2005年03月3 1日	日本原子力学会2005年 春の年会要旨集, 6	原子力工学専攻の大学院生を対象に実施された平成1 4年度から16年度にかけての3年間の授業評価アンケ ート結果をもとに、回答の特徴と傾向の変化を分析 した。その結果、5段階評価で平均値が3.75以上の教 科は14年度は1教科しかなかったのに対し、平成16年 度には3教科が増え、さらに15年度、16年度ともに平 均値3.25以上の教科が6割以上を占めていた。教員に 対して実施した自己評価アンケートの結果から、各 教員が積極的に授業改善に取り組んでいることがう かがえ、その姿勢が学生に伝わったことが授業評価 の結果に結びついたと考えられる。 著者：上田宣孝, 松本隆信, 山中伸介, 宇埜正美, 三浦彩美, 米谷淳
9. 原子力工学専攻学生の原子力の学 問や産業に対する意識	共	2005年03月3 1日	日本原子力学会2005年 春の年会要旨集, 8	原子力工学専攻の学部学生および大学院生を対象に 行なった平成16年度の意識調査の結果から、学生が 原子力の学問や人材育成は社会的に必要であると思 えているが、原子力産業に関してはあまり魅力が感 じられず、従事したいという意識もそれほど高くない ことがわかった。原子力の学問に対する魅力は、 社会的必要性に比べると低くなっているが、学習意 欲は比較的高かった。また、原子力の学問や産業の 魅力と原子力発電所の必要性や将来性との関係はあ まり強くないことも示唆された。 著者：松本隆信, 上田宣孝, 山中伸介, 宇埜正美, 三浦彩美, 米谷淳
10. 大学院教育の改革と学生評価(3) －卒業研究が学生に与える教育効 果	共	2004年09月1 6日	日本原子力学会2004年 秋の大会要旨集, 80	原子力工学専攻の学部4年生を対象に、卒業研究に本 格的に着手する直前と卒業研究終了直後という2つの 時点において、卒業研究に関するアンケート調査を 実施し、学生の満足度に着目しながらその教育効果 について分析・検討した。その結果、満足度を問う7 項目について全て平均値の上昇がみられた。また能 力・知識・技術に関する自己評価の変化をみても、 研究終了後の方が高い平均値が示された。さらに、 所属研究室に対する満足度が自己評価に影響を及ぼ していることも示唆された。 著者：三浦彩美, 山中伸介, 宇埜正美, 米谷淳
11. 大学院教育の改革と学生意識調査 (1)－原子力工学専攻大学院生の 悩みとその経年変化	共	2004年09月1 4日	日本心理学会第68回大 会発表論文集, 224	阪大原子力工学専攻に所属する大学院生を対象に実 施した意識調査の結果のうち、悩みとその経年変化 に着目し分析・検討を行なった。14年度と15年度を 比較したときに変化が認められた項目は、就職活動 に時間がとられる、雑用に時間を取られる、指導教 官や院生との人間関係、就職に見通しが立たない、 という4項目で、いずれも14年度よりも15年度の方が 悩む学生が増えていることが示唆され、また学年に よる違いもみられた。 著者：三浦彩美, 山中伸介, 米谷淳, 松本隆信
12. Facial expressions in movie pi ctures ?Comparison between Ja panese movies and Western movi es	共	2004年08月1 2日	The 28th Internationa l Congress of Psychol ogy (北京で開催)	映画作品(邦画・洋画各3作品)から60の感情表現場 面を取り出した。被験者が登場人物の感情を評定し 、一致率の高かった場面の表情をFACS (Facial Acti on Coding System) により分析した。その結果、邦 画洋画ともにいわゆる典型的な基本表情ではない顔 の動きが多く観察された。とくに恐れ表情におい て日本人と欧米人に違いがあることが示唆された。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
13. 原子力工学教育の教育効果(3)－卒業研究の効果に関する研究	共	2004年07月30日	日本工学教育協会平成16年度講演論文集, 189-190	著者：三浦彩美, 米谷淳 原子力工学専攻の学部4年生を対象に、卒業研究に本格的に着手する直前と卒業研究終了直後という2つの時点において、卒業研究に関する同一内容のアンケート調査を実施し、学生の満足度に着目しながらその教育効果について分析・検討した。その結果、満足度を問う7項目については全て平均値の上昇がみられた。また能力・知識・技術に関する自己評価の変化をみても、研究終了後の方が平均値が高かった。さらに、所属研究室に対する満足度が自己評価に影響を及ぼしていることも示唆された。
14. 原子力工学教育の教育効果(2)－大阪大学と原子力工学専攻に対するキャンパスイメージ	共	2004年07月30日	日本工学教育協会平成16年度講演論文集, 187-188	著者：三浦彩美, 山中伸介, 宇埜正美, 米谷淳 阪大原子力工学専攻に所属する大学院生を対象に意識調査を実施し、大阪大学と原子力工学専攻についてそれぞれどのようなイメージをもっているのかを比較・検討した。その結果、アカデミック、創造的、専門的といった項目については、大阪大学よりも専攻に対する評価の方がひくかった。しかし、自由、充実したなどの項目においては両者に違いはなく、温かいというイメージは上昇していることから、学生が専攻を居心地のよい場所と感じていることがわかった。
15. 原子力工学教育の教育効果(1)－教育効果の規定因の検討	共	2004年07月30日	日本工学教育協会平成16年度講演論文集, 185-186	著者：宇埜正美, 山中伸介, 三浦彩美, 松本隆信, 米谷淳 新教育システムの評価の一環として実施した阪大原子力工学専攻大学院生による授業評価アンケートの結果をもとに、COEプログラムを客観的に評価し、大学院教育においていかなる要因が教育効果を規定するののかについて検討した。14年度と15年度のデータを分析したところ、全ての項目において評価平均値の上昇がみられた。とくに履修意義が上昇しており、授業興味や予復習など学生自身の積極性が履修意義上昇の主な要因となっていることが示唆された。
16. 原子力工学専攻大学院生の意識調査(2)－研究・教育に対する満足度と原子力への態度	共	2004年07月19日	日本社会心理学会第45回大会発表論文集	著者：山中伸介, 宇埜正美, 三浦彩美, 松本隆信, 米谷淳 阪大原子力工学専攻の大学院生を対象に行なった意識調査の結果のなかから、教育・研究環境に対する満足度と原子力への態度に関する項目に着目し、前年度の結果と比較しながら分析・考察を行なった。満足度については、望ましい変化の見られない項目があったが、「どちらでもない」という曖昧な回答をする学生は減少していた。また原子力への態度については、とくに博士後期課程の学生において平均値の上昇がみられ、高い意識とモチベーションをもって学習・研究に取り組んでいることがわかった。
17. 大学院教育の改革と学生評価(2)－平成14年度後期と平成15年度前期の授業評価アンケート調査結果の比較	共	2004年03月20日	日本原子力学会2004年春の年会要旨集, 27	著者：三浦彩美, 山中伸介, 松本隆信, 米谷淳 阪大原子力工学専攻の大学院生を対象に行なった授業評価アンケートの結果について、年次変化に注目して比較・検討した。その結果、14年度よりも15年度の方が授業に対する評価が全般的に上昇しており、5段階評価で平均値2.5以下の科目が大幅に減少していた。また主成分分析を行ない、因子得点の高い教科の特徴をみると、とくに出席率と教官熱意において高い平均値を示しており、学生はよい授業にはよく出席し、また教官の熱意を感じとっていることが示唆された。
18. 大学院教育の改革と学生評価(1)－阪大原子力工学専攻大学院生の入学動機と教育環境	共	2003年09月25日	日本原子力学会2003年秋の大会要旨集, 194	著者：三浦彩美, 山中伸介, 米谷淳 阪大原子力工学専攻の大学院生を対象に行なったWeb方式のアンケート調査の結果のうち、とくに入学動機と教育環境に着目した。入学動機は、学部で行ったことの継続、就職上有利、先端分野の知識や技術を修得したいといったものが多かった。また教育環境については、教官の熱意、基礎知識が身につく、最新の知識が身につくといった項目で比較的高い平均値が示され、また博士前期よりも後期課程の学生の評価が良いこともわかった。
19. 原子力工学専攻大学院生の意識調査(1)－キャンパスイメージと原子力への態度	共	2003年09月17日	日本社会心理学会第44回大会発表論文集	著者：三浦彩美, 米谷淳, 松本隆信 21世紀COEプログラム「新産業創造指向インターナサイエンス」への着手にともない様々な教育改革が進められていくことに先立ち、今現在の阪大原子力工学専攻大学院生が自身の所属する大学や原子力工学という学問領域をどのようにとらえているかを問うアンケート調査を実施した。経年変化に注目すると、入学時と比べて現在の方が、キャンパスイメージが良い方向へシフトしており、特許をとってみたい、起業したいなど、工学者としてのモチベーションも高くなっていることが示唆された。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
20. 日本人の表情に関する研究－映画作品における文脈情報の効果	共	2003年09月15日	日本心理学会第67回大会発表論文集, 196	映画作品における音声情報の影響力を調べるために、邦画6作品からとりだした幸福、怒り、悲しみの場面を呈示刺激に用いた評定実験により検証した。音声つきと音声なし、文脈なしの3条件にわけて呈示し、強度を評定させた結果を比較したところ、音声条件の違いで評定強度に有意な違いがみられたのは幸福のみであった。このことから、観客は音声情報以外にもさまざまな情報を手がかりに登場人物の感情を推察していることが示唆された。 著者：三浦彩美, 米谷淳
21. 日本人の表情に関する研究－テレビでみられる子供の表情	共	2003年09月13日	日本心理学会第67回大会発表論文集, 135	子どもと大人の表情の違いをとらえるために、TVドラマから子どもの表情をとりだし、評定実験および表情分析作業を行なった。評定実験の結果一致率が高かった47シーン107表情をFACSにより分析したところ、大人の表情と同様、基本表情以外の様々な顔の動きが観察された。また、恐れや幸福の表情において大人の表情とは異なる特徴があることも確認された。 著者：寺井朋子, 三浦彩美, 米谷淳
22. 表情および状況の認知に音声情報が及ぼす影響－邦画を用いた評定実験による検討	共	2003年08月02日	感情心理学研究, 11, 88	映画作品をみて状況や登場人物の気持ちを読み取ろうとすると、音声情報はその判断においてどの程度の影響力をもつのかを、邦画6作品からとりだした10場面を呈示刺激に用いた評定実験により検証した。音声つき条件と音声なし条件をもうけ結果を比較したところ、感情が強く表出されている場面よりも弱く表出されている場面の方が、表情の印象や状況の判断において、音声情報の影響を受けやすいことが示唆された。 著者：三浦彩美, 米谷淳
23. 日本人の表情認知構造－動作教示法による表情を用いた再検討	共	2003年04月25日	信学技報, 103, 21-26	日本人が、文化普遍的な基本表情と、映画やドラマの感情表現場面で見られるような表情とをそれぞれどのような認知的枠組にもとづいて知覚しているのかを検討した。その結果、基本表情と典型的表情のそれぞれを日本人が正しく解読できることを示唆する結果が得られた。また、因子分析の結果にもとづいて日本人の表情認知構造の特徴を調べたところ、基本表情や欧米人の典型的表情に対する認知構造と、日本人の典型的表情に対する認知構造ではとくに悲しみのカテゴリーの位置に違いがあることが確かめられた。 著者：三浦彩美, 米谷淳
24. 映画における表情表出－洋画を用いた表情分析	単	2002年11月09日	日本社会心理学会第43回大会発表論文集	洋画3作品における登場人物の顔の動きを分析・記述することにより、欧米人が特定の感情をあらわすときの表情の特徴を調べた。被験者が特定の感情をあらわす場面として選択した38カットを分析対象とし、その場面の表情を頭や視線の動きも含めてFACSにより記述した。その結果、FACSやJACFEEで定義された基本表情とは違った顔の動きが9種類の表情それぞれにおいて観察された。
25. 日本人の表情に関する研究－邦画における表情表出	単	2002年09月25日	日本心理学会第66回大会発表論文集, 170	邦画3作品における登場人物の顔の動きをFACSにもとづいて分析・記述することにより、日本人が特定の感情をあらわすときの表情の特徴を調べた。被験者が特定の感情をあらわす場面として選択した33カットを分析対象とし、その場面の表情を頭や視線の動きも含めてFACSにより記述した。その結果、FACSやJACFEEで定義された表情とは違った顔の動きが9種類の表情それぞれにおいて観察された。
26. 洋画を用いた感情評定実験－テレビ視聴との関連	単	2002年06月28日	信学技報, 102, 23-26	ポピュラーな洋画のシーンを呈示刺激として用いた感情評定実験と、テレビ視聴に関するアンケート調査により、映画作品における登場人物の感情評定と、幼少の頃から現在までのテレビ視聴時間や視聴番組のジャンルとの間にどのような関係があるかを検討した。その結果、呈示刺激に見出した感情表出の多様性と小学校時代のテレビ視聴時間との間に相関関係がみとめられ、感情認知とテレビ視聴に関連があることが示唆された。
27. 映画における表情表出－self-conscious emotionをあらわす表情	単	2002年05月24日	感情心理学研究, 11, 34-35	映画の中の恥じらい、困惑、罪悪感をあらわす場面における登場人物の表情を分析することにより、自己意識感情をあらわす表情の特徴を調べた。評定実験によって抽出された邦画15、洋画10の表情をFACSにもとづいて分析したところ、恥じらい、困惑、罪悪感をあらわす表情には、視線回避や微笑といった共通の特徴が観察されることが分かった。また邦画のみに恥じらい困惑の場面で頭部を下げる動きがみられることなど、邦画と洋画の表情の違いがあることも示唆された。
28. 日本人の表情に関する研究－邦画とJACFEEの比較	共	2001年11月09日	日本心理学会第65回大会発表論文集, 187	邦画の対人場面でみられた典型的表情とJACFEEで定義された基本表情をそれぞれ動作教示法でモデルに

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
29. 映画における表情表出—洋画とJACFEEの比較	単	2001年10月13日	日本社会心理学会第42回大会発表論文集, 102-103	表出させ、36の表情を呈示刺激に用いて、表情の強度と自然さを回答させる評定実験を行なった。その結果、恐れ、怒り、悲しみは邦画よりJACFEEの方が強度平均値が高いが自然さは邦画の方が高いことや、頭部や視線の動きが加わると表情がより自然なものとして評定されることがわかった。 著者：三浦彩美, 米谷淳
30. 映画における表情表出—邦画・洋画・JACFEEの表情の自然さ	共	2001年06月01日	感情心理学研究, 8, 75-76	映画作品（邦画・洋画）の対人場面でみられた典型的表情とJACFEE（Japanese and Caucasian Facial Expressions of Emotion）で定義された基本表情をそれぞれ動作指示法でモデルに表出させ、34の表情を呈示刺激に用いた評定実験を行ない、洋画の中でみられる表情とJACFEEの表情を比較した。その結果、驚き、恐れ、怒り、悲しみについては洋画よりもJACFEEの方が回答一致率が高く、強度も大きくとらえられる傾向があることがわかった。また頭部や視線の動きが加わることで評定に変化がみられた。
31. 日本人の表情に関する研究—邦画を用いた表情分析	共	2000年11月07日	日本心理学会第64回大会発表論文集, 180	邦画3作品から基本感情をあらわす場面をとりだし、30場面を呈示刺激について複数選択式の評定実験を行なった。被験者が高い一致率で1つの感情を選んだ27場面の表情をFACSにより分析した。その結果、嫌悪の場面で視線を下げる動きが、悲しみの場面で視線や頭を下げる動きがみられた。基本表情に規定された表情以外の動きもみられ、邦画における感情表現がその表情においてさまざまなバリエーションをもつことがわかった。 著者：三浦彩美, 米谷淳
32. 映画における欧米人の表情表出	単	2000年11月03日	日本社会心理学会第41回大会発表論文集, 138-139	洋画3作品から基本感情をあらわす場面をとりだし、30場面を呈示刺激について複数選択式の評定実験を行なった。被験者が高い一致率で1つの感情を選んだ23場面の表情をFACSにより分析した。その結果、驚きの場面で両眉を引き寄せる動きが、悲しみの場面で瞼を引き締める動きが観察され、映画作品における登場人物に必ずしも基本表情どおりの表情がみられるわけではないことがわかった。
33. 日本人の表情に関する研究—邦画における感情表現	共	1999年09月05日	日本心理学会第63回大会発表論文集, 82	代表的な邦画における2名の女優について、7つの基本表情が生じた時間を秒単位で測定した。幸福や中立の表情が多く、文脈の流れによって表情の出現が変化することもわかった。また、悲しみのシーンを取り出して詳細に分析したところ、顔を手で覆ったり、顔を下や横にそむけたりして悲しみを隠そうとするしぐさが共通して観察され、出現時間の半分近くが隠すシーンであることが確かめられた。 著者：三浦彩美, 米谷淳
34. 日本人の表情に関する研究—洋画を用いた認知実験	共	1999年06月18日	信学技報, HCS99-14, 13-16	日本人の表情認知構造を調べるため、欧米の映画から選び出した81の表情刺激をランダムに112名の大学生に呈示し、表情表出の強さを評定させた。その結果、呈示刺激の表情により評定値が有意に変動することが確かめられ、評定者の性差や性差と呈示刺激の交互作用に有意な変動が認められた。因子分析により、欧米人の表情に対する表情認知構造は日本人の表情に対するものと大体同じだが、悲しみの認知だけが異なるということがわかった。 著者：三浦彩美, 米谷淳
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 非言語行動の語用論的アプローチ	共	2003年	日本心理学会第67回大会	ワークショップの話題提供者を担当。 メンバー：荒川歩・三浦彩美・坊農真弓・大坊郁夫・戸梶亜紀彦
6. 研究費の取得状況				
学会及び社会における活動等				

学会及び社会における活動等

年月日	事項
	日本心理学会 日本教育心理学会 日本感情心理学会 日本社会心理学会